

復活節第4主日

ヨハネ 10・27-30

2022.5.8

カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日は、教会の中では四旬節第4主日ですけども、世の中では「母の日」ということになっておりますね。だから、皆さんそれぞれ自分のお母さんのことを思い起こして、いろいろ合わないこともあるけども、感謝だなあと、既に天国にいるかもしれませんがね、実際に一緒にいるかもしれないけども、感謝だなあと思える方々は幸いなるかな、ですよ、そういうふうに見えるんだったらね。でも、一方で、「母の日」という言葉を聞いて心が波立ってしまう、そんな人も少なくはないのが現実です。

わたしは、直接この母の日とは関係ないんですけど、思い出す人がいます。その方にどのように答えるのかっていうのが司祭生活の課題かもしれない。何年か前ですけど、自分は、自分のお母さんとの関係が悪かったから、母という言葉が本当に受け入れられないんだ、と。だから、カトリック教会に来ればマリア様、母マリアというのがいたるところで出てきて、それが自分としてはカトリック信者ではあるけれど受け取れないという、そんなことをおっしゃっていた人がいて、そういう人もいますよね。

でも、考えてみたら、本当はそういう人のためにこそマリア様はいらっしゃるわけなんですね。マリア様だったら、母という言葉が引っかかるんだったら、母でなくても、姉でも、友だちでも、ただのマリアでも良いから、ご自分がそばにいるってことを分かってほしい、そういうような思いでいらっしゃるんじゃないかなと思うんです、マリア様がね。マリア様は、この世において受けるべき愛情を味わうことができなかつた人とか、寂しさとか悲しさとか、そういうのを抱えている方と共にこそ、そういう方たちのためにこそその存在として、神様がわたしたちに与えてくださった方ですよ。ちょうど五月はマリア様の月、五月は聖母月であるわけですけども、寂しさだとか悲しさだとかを抱えている方と共にいつもマリア様はいらっしゃって、そして、祈り続けてくださる、力づけてくださる、そういう方なんだって、わたしたちは信じているわけです。

マリア様のわたしたちのためにしてくださるお祈りとか働きというのは、一

人ひとりの人生と共にあるから、多様ですね。ですけども、最終的には一つの点に集約できると言っているんじゃないかと思うんです。それは、イエス様が生涯をかけて人々に届けようとした、父である神様の呼びかけですね。「あなたはわたしの愛する子ですよ」、そういう呼びかけ、一人ひとりの命に対するその呼びかけ。それが本当に一人ひとりの心に届くように、それがマリア様がいつも心配しているし、祈っていることだと言っているんじゃないかと思います。

今日の福音では、「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける」というイエス様の言葉が出て来ましたが、でもその声が届かないということもあるわけです。人生で体験する悲しい出来事とか怒りとか、いろんなことで心の道が塞がってしまって神様の言葉が通ってこれない、そういう状態っていうのはやっぱりあるんじゃないかなあ。そして、考えてみれば、わたしたちの中にもそういう体験が多かれ少なかれあるんじゃないかなあと思うんです。

「[結び目を解くマリア](#)」というご絵があるのをご存知ですか？ フランシスコ教皇様が紹介して、世界的にも広がって、こういうご絵の紹介をするときには事前に「天使の森」の人に言うとおかないと仕入れられないからいけなかったんだけど、すみません、でも、たぶんあると思います。マリア様が天使に手伝ってもらいながら、絡み合ったリボンとか紐の結び目を一所懸命ほいでいるというマリア様の絵があります。見たことのない方はどうぞ後で売店でご覧になってほしいと思います。そういういろんな絡み合ったものを解いて、一本のリボンに直していつているという絵ですけども、それが、マリア様のわたしたちに対する働きやお祈りのイメージを本当によく表しているような感じがします。

いろんなことでこじれてしまったわたしたちの心が、あまりにもこじれて神様の呼びかけも入ってこない、そういう心の道を忍耐強く解きほぐして下さっている、そういう姿ですね。だから、わたしたちはそのイメージを思い浮かべながら、わたしたち自身が心の中にわだかまりを抱えているな、こじれているなと思う時に、そのご絵のマリア様と心を合わせるつもりで、自分もいろんな絡み合ったものを解きほぐしていくっていうイメージを持ってみたいんじゃないかなと思います。

絡まったものを解きほぐすっていうのは、忍耐と、そして時間がかかる、そういう作業。それっていうのは、ある意味で一人ひとりの人生の歩み、あるいは信仰生活の歩みそのものを表していると言えると思います。まずは一つひとつの問題を思い浮かべる前に、マリア様と一緒に自分の中の絡み合ったものを

解きほぐしていくというのは、一つのイメージトレーニングですね。お祈りというのはイメージトレーニングであるような側面もあるんじゃないかと思います。このようなものを解きほぐしつつ、お互いに、いろんな絡み合ったものを抱えた者同士として、互いのためにも祈れたら良いと思います。

今日は母の日で、いろいろ思い浮かべて感謝、感謝だなということを思い浮かべられる人は本当に幸いなるかなで、それは一緒に神様に感謝したいと思えますと同時に、話はもとにもどりますけれども、そういう「母の日」という言葉で心が痛んじゃう、自分の母との関係が悪い、悪かったという人も、自分が母として駄目だなぁということに傷ついている人もいるし、あるいは母になりたいのにその恵みを与えられないということに傷ついている、これはちょっと重たいんですけれど現実ですよ。そのようないろんな形で傷ついている方々のために、マリア様が絶えず祈り続けていらっしゃる、だからわたしたちはどんな時も一人じゃないんだということをどのように伝えられるのか、すぐには思い浮かばないんだけど、出発点はマリア様と共に祈るということなんじゃないかと思います。マリアと共に祈るならば、やがて共に働くいろんなやり方とか道が開けてくるというか、示されていくと思います。

最後に、今日は世界召命祈願の日でもあります。一人ひとりのキリスト者としての使命を思い起こしましょう、という趣旨の日ですね。マリアと共に祈りながら、一人ひとりがどのような働きに呼ばれているのかということを考えつつ、特に、母の日だから、母の日にあたって心が傷付いてしまう方々がいらっしゃるということを思い起こしながら、その方々のためにマリア様の祈りに心を合わせてミサを捧げられたら良いと思います。